第12回　読者と選ぶ

「建築と社会」賞入賞発表

「建築と社会」という本誌の趣旨にふさわしい社会性・環境などに配慮した有意義な建築作品や建築にかかわる論文・記事などを顕彰する。選考にあたっては、会員の声を反映し、広く開かれた賞とする。

作品部門

西予市庁舎

〈2012年１月号〉

所在地―愛媛県西予市宇和町卯之町三丁目434番地１
発注者―西予市
設計・監理―株式会社東畑建築事務所
施工―建築　戸田・東部・平野特定建設工事共同企業体
電気設備　四電工　宇和島営業所
空調設備　ダイキンエアテクノ　四国支店
給排水衛生設備　重松兄弟設備

愛媛県南部に位置する西予市は、豊かな自然とすぐれた伝統文化に恵まれた人口４万２千人のまちです。市庁舎は、JR予讃線卯之町駅前の敷地に、５町が合併して誕生した西予市の新しいシンボルとして計画されました。

高齢化と過疎化が進む地域にあって、私たちは、市民の利便性向上に最大限配慮するとともに、災害に強く、環境に配慮した庁舎を目指しました。特に、市民の「居場所」となり、イベント開催などの交流活動のスペースとなるパブリックスペースとして、庁舎前の「大庇」やエントランスホールと連続する「市民ロビー」を計画しています。

西予市は「宇和檜」などの森林資源に恵まれ、内部空間に西予市産木材をふんだんに用いた「木の庁舎」としています。圧縮、防火等の加工技術により、床、壁、天井の仕上げだけでなく、カウンターや議場の照明器具なども地域産材を用いたデザインとしました。

また、西予市「バイオマスタウン構想」の一環として、木質ペレットを使用した冷温水発生器による空調システムを庁舎の一部に採用しています。

撮影　時空アート

米井　寛　よねい・ゆたか
1984年　株式会社東畑建築事務所入社
現在　執行役員大阪事務所副所長
主な作品
武庫川女子大学総合薬学教育研究棟（2008年）
武田薬品研修所（2010年）
広島法務総合庁舎（2011年）

今野直史　こんの・なおふみ
1987年　株式会社東畑建築事務所入社
現在　大阪事務所設計部長
主な作品
吉野川市立山川中学校（2009年）
鳥取医療センター（2012年）
社会医療法人弘道会寝屋川生野病院（2013年）

三宗知之　みつむね・ともゆき
1998年　株式会社東畑建築事務所入社
現在　大阪事務所設計部主管
主な作品
京都市左京区総合庁舎（2011年）
大阪大学テクノアライアンス棟（2011年）

作品部門

京都銀行茨木ビル

〈2012年４月号〉

所在地―大阪府茨木市西駅前町５番１号
建築主―株式会社京都銀行／京友商事株式会社
設計・監理―株式会社竹中工務店
施工―株式会社竹中工務店

撮影　古川泰造

JR茨木前に建つ銀行支店とテナントオフィスの複合ビルです。京都銀行の拠点である京都の町家をその構成に参照し、大阪と京都を結ぶ宿場町であった茨木の伝統的な千本格子をファサードに参照することで、京都と茨木の歴史を深層／表層的に重ね合せるデザインを目指しました。
京町家の坪庭や通庭を立体的に翻訳し、都心部の隣地建物に囲まれた「うなぎの寝床」でありながら積極的に自然環境を取り入れることを意図しました。北側に坪庭、西側には隣地建物に囲まれたヴォイドを穿ち、通庭に見立て、その「庭」によって柔らかい自然採光と通風が可能になります。またリフレッシュバルコニーや屋上庭園を設置し、直接外気に触れる空間も組み込みました。
ベイスギの千本格子はRCの庇と組み合わさり、日射による熱負荷を低減すると共に、無機質なオフィスに質感を与え、庇の影とガラスの反射と重なり合い、奥行きあるファサードを重層的に演出します。

長谷川淳　はせがわ・じゅん
1984年　株式会社竹中工務店入社
現在　大阪本店設計部　設計第７部長
主な作品
アシックス本社東館（2009）
立命館大学BKCインテグレーションコア他（2010）
立命館大学衣笠新体育館（2013）

松本伸洋　まつもと・のぶひろ
1992年　株式会社竹中工務店入社
現在　大阪本店設計部設計グループ長
主な作品
ハービスエント（2004）
御影クラッセ（2008）
武庫川女子大学栄養科学館（2011）

藤原浩士　ふじわら・こうじ
1994年　株式会社竹中工務店入社
現在　大阪本店設計部
主な作品
堂島クロスウォーク（2008）
ジオタワー宝塚（2010）

伊藤剛　いとう・ごう
2003年　株式会社竹中工務店入社
現在　大阪本店設計部
主な作品
西宮ガーデンズ（2008）
京都銀行茨木ビル（2012）

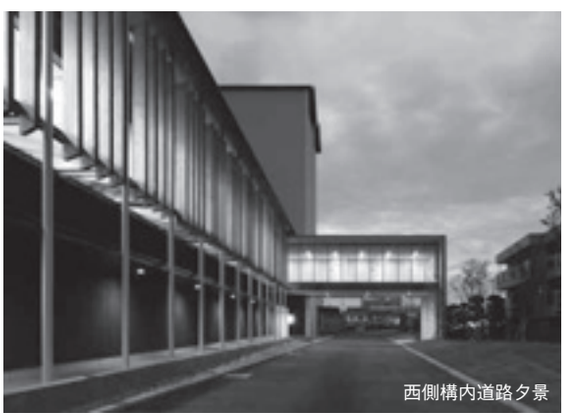
作品部門

ヒガシマル食品　新工場

〈2012年12月号〉

所在地―兵庫県たつの市龍野町日飼188
建築主―ヒガシマル食品株式会社
設　計―KAJIMA DESIGN
監　理―鹿島建設株式会社関西支店品質監理一級建築士事務所
施工者―鹿島・進藤共同企業体

北西側外観


西側構内道路夕景

計画に先駆けて、我々は龍野のまちに３つのエリアからなる歴史軸を見出しました。
・「歴史」：豊かな緑を背に、城下町として栄えた歴史的まちなみエリア
・「近代」：ヒガシマル醤油第一工場を中心とした近代の表情が残るエリア
・「未来」：駅前周辺整備事業の進むこれからのまちなみエリア
そして今回の計画地をその「歴史・近代」と「未来」の間と位置付け、プログラムを展開しました。
例えば、「歴史」エリアからは切妻屋根や白壁といった伝統的要素を継承し、「近代」エリアからはレンガタイルやRC打ち放しといった素材的要素を取り込みました。そして、「未来」に対して、新しいまちなみの指針となるデザインを試みました。
このように「伝統」と「革新」の共存をテーマに、街づくりに貢献する工場を計画しました。

吉野博史　よしの・ひろし
1988年　鹿島建設入社
現在　関西支店建築設計部担当部長
主な作品
虎屋 京都工場
大鵬薬品工業 北島工場

細田尚宏　ほそだ・なおひろ
1996年　鹿島建設入社
現在　関西支店建築設計部主査
主な作品
生長会 府中病院西館
佛教大学 二条キャンパス１号館

南側公開空地

撮影　野口兼史（K’s Photo Works）

論考部門

建築と窓〈2012年７月号〉

香山壽夫

ーいま思うことー

今、構想中の小さな礼拝堂の、内部空間のスケッチの手を休めて、パステルの色のついたままの指で鉛筆を持って、この文章を書き始めました。

「光」は、建築空間の本質ですし、「窓」は、それを建築として形づくる時の、最も大切な要素ですから、「光と窓」について考えることは、建築家については、常に大きな喜びです。そのことについて、私なりに、設計しながら、本を読みながら、あるいは旅をしながら、折にふれて考え続けてきたことを、「建築と社会」誌上に書かせていただいたことは、とても嬉しいことでしたが、その上に、その文が賞に選ばれることは、誠に光栄なことです。

人として、この世に生を与えられて七十五年、建築設計を自分の道と選んで五十年、今ここで改めて思うことは、建築という芸術（技術）が、天上から私達の上に降り注ぐ、太古の昔から変わらぬ光の中で成立している芸術だ、というこの単純明快な本質です。

この世は、確かに、絶えず変わり動いていきます。その変動は、益々激しくなっているかもしれません。だから、建築も、そして人間も、それに応じて変っていかなければならないと主張する声も大きく聞こえます。しかし、変化する世なればこそ、建築は、変わらぬものの上に立ち、続いていくものを見つめつつ、作っていかねばならない、と私は思います。そういうことを、もう一度、これを機会に、しっかり考えてみたいと思っております。私の小論に目をとめて下さった選考者、並びに誌者の方々に心から御礼申し上げます。

香山壽夫　こうやま　ひさお

1937年東京生まれ。東京大学教授、明治大学教授、放送大学教授、聖学院大学特任教授経て、現在は香山壽夫建築研究所所長。東京大学名誉教授。主な作品は彩の国さいたま芸術劇場、熊野本宮館、東京大学伊藤国際学術研究センターなど。主な受賞は日本芸術院賞、村野藤吾建築賞、日本建築学会賞、アメリカ劇場技術協会賞等。

論考部門

『想定外』を繰り返さない〈2012年８月号〉

河田惠昭

働き盛りの49歳の時、阪神・淡路大震災が起きました。そして、私の人生が変わりました。この震災以降、災害の問題を議論するときに、いつも被災者がその中心に位置するようになりました。そして、防災・減災の研究は実践的であらねばならないと確信し、この評価が、いつも頭の片隅に位置するようになりました。そして、防災・減災に関係することであれば、何にでもチャレンジするという姿勢を続けてきました。

あの３月11日、神戸の兵庫県公館で朝から、阪神・淡路大震災記念　人と防災未来センターが主催で、東海・東南海・南海地震に関するシンポジウムをやっている最中に、東日本大震災が起こりました。天井のシャンデリアやスクリーンの揺れから、「どこか遠くでプレート境界地震が起こっている」と判断し、すぐに講演を中止しました。そして、翌日、宮城県に先遣隊を派遣し、センターは６カ月間、被災地支援に奔走しました。

私自身もその激動に身を置きながら、政府の復興構想会議や専門調査会で、将来の「想定外」災害にどのように備えるのかに関する意見を述べてきました。その姿勢は、その後設けられた防災対策推進検討会議や、防災対策実行会議でも継続しています。わが国の防災、減災対策の基本理念となった「想定外を繰り返さない」ために、災害を取り巻く“リベラル・アーツ”と“テクノロジー”の知識を総動員することが求められています。そのときまとめた一論考が受賞対象になりました。私にとってまさに「想定外」であり、感謝にたえません。

河田惠昭　かわた・よしあき

1946年大阪府生まれ。京都大学教授、防災研究所長を歴任し、同名誉教授。現在、関西大学社会安全研究センター長・教授および阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長（兼務）。日本自然災害学会長を経て、現在、日本災害情報学会長。防災功労者内閣総理大臣表彰、国連SASAKAWA防災賞などを受賞。

論考部門

歴史的建造物の保存活用 ー残すことはつくることー〈2012年11月号〉

藤岡洋保

「残すことはつくること」は20年来の私の保存論だが、建築家の一部からの評価をいただいているものの、建築史関係者からの理解は得られないままなので、今回の受賞には驚くとともに、背中を押していただいたと感謝している。

私は日本近代建築史の研究者で、「伝統」とか「空間」「文化」など、建築に関わる概念とデザインとの関係を中心に研究してきた。たとえば、建築家が「日本的なもの」をどう考え、どのように表現してきたかとか、「空間」という概念がいつ頃日本に導入され、それによって建築の見方がどう変わったかというようなことであり、言説の真偽よりも、その言説を成り立たせる枠組みのほうに関心を寄せるということである。

「保存」についての関心もその一環である。私は「保存」には正解はないと考えている。それは矛盾に満ちた概念で、近代特有の制度が反映した政治的な概念でもある。そこにどのような意味を見いだせるかが、私が考え続けてきた問題で、それに対する私なりの答えが「残すことはつくること」なのである。

近年、モダニズムの建物が部分保存や外壁保存というかたちで残される例が見られはじめた。私はそれに対して危惧を感じている。それは80年代からの景観行政を無批判に踏襲しただけで、モダニズムの建築的・建築史的価値が軽視されているからである。「保存」に、より多くの意味を見出すことがいま求められていると思う。

藤岡洋保　ふじおか・ひろやす

1973年東京工業大学工学部建築学科卒業。同大学修士課程・博士課程、明治大学工学部助手を経て、1984年東京工業大学助教授。1996年東京工業大学教授となる。現在は東京工業大学大学院理工学研究科教授。主な受賞に、東京工業大学教育賞（2003）、燈光会表彰（灯台史研究）（2004）、日本建築学会賞（論文）（2010）等。

審査講評

第12回読者と選ぶ「建築と社会」賞

☆審査会☆

田中　それでは、第12回読者と選ぶ「建築と社会」賞の選定を行いたいと思います。この賞は作品部門と論考部門の２つの部門に分かれていまして、選定は各部門１～４点、「建築と社会」の趣旨にふさわしい社会性と環境性などに配慮したものを選んでいただきます。第12回の選考対象は平成24年１-12月号の「建築と社会」に掲載されたものです。編集委員会で１次審査をしていただき、作品部門11作品、論考部門10作品がノミネートされています。作品部門の選定の場合、誌面からでは写真のアングルや撮り方でイメージが違ってきますし、「建築と社会」賞で重視している社会性や環境性をこの写真から語られるか、コメントから理解できるかどうかといのが難しいですね。

■作品部門

田中　１次審査で投票数がどうなったかご覧になっていただいたと思うんですが、選考委員の視点から話をしていきたいと思いますので、レビューするかたちでノミネートされた作品についてコメントを交わしていきましょうか。作品部門については主に実際に作品を見られたという髙砂先生や井上先生のご意見を参考にしながら進めていきたいと思います。**「西予市庁舎」**の作品についていかがでしょうか。

髙砂　この作品は残念ながら見に行けなかったんですが、建物自体は特殊なものではないですね。地元の木材を待合ロビー、議場に使っているのが特徴だと思うんですよ。その部分では社会性があるかなと思いますが、環境への配慮は特に無かった気がします。

田中　庁舎建築は社会性や市民開放の意図が当然あるべきもので、事例は多数ありますね。

井上　木材系が使われているのははやりだし、それを無視するのは難しいかなと思います。

谷口　西予市のホームページで平面図を見ているんですが、見ると正面写真の右手の建物が健康保険センターでして、そことの接続をかねた大庇になっています。建築的に言うとファサードのデザインを落としてしまっているんですけど、それでこの大庇の仕掛けがあるのだったらいいなと思いますね。デザインを崩すことをあえてしながらがんばったという感じですね。

髙砂　庁舎から健康保険センターにいけるようにしたんですね。そこを「市民ロビー」と呼んでいるようです。空間として連結して生み出したというのが社会性というか地域に開かれたつくり方ですね。説明に対してこういう図面を載せるべきです。イメージできるように。

田中　すっきりと嫌味なく洗練された感じがありますね。

田中　**「京都銀行茨木ビル」**はいかがでしょうか。

髙砂　京都の町家をビルに置き換えた建物ですね。通常はビルとビルの間は隙間が無いんですけれどもこれはずっと上まで隙間を設けている。町家のようにビルのなかに光が入り込む工夫は評価できるのではないかと思いました。木の格子をたくさん使っているので柔らかさがありますね。

田中　大きな建物では無いですが、オフィスビルの一つのモデルをつくっている要素があるのかな。光や空気の流れを取り入れるために木を意匠的に取り入れてまち並みを作っている。しかもモチーフが、伝統的な町家から発想したものを横ではなくて縦に繋いでいくのが面白い。できればこれがプロットタイプになって地域の中で繋がっていくような仕掛けをもっともっと出されると良いのかなと思いました。

髙砂　庇があるのがよかったですね。

田中　そうですね。この水平のラインが良かったですね。

谷口　京都なので、“つぼ庭”を言っているのが、「ベタやな」と思いましたね。（笑い）

井上　木材が構造的に関係していないのが気になりますね。外装に木材を使ったときに経年変化なんかどうなんですか？色とか。

谷口　メンテナンスは大変でしょうね。

髙砂　ガラスの内側に入れているのでメンテナンスが出来るように考えているのでしょう。

田中　ガラスの内側に入れる手法は海外でも事例をみますね。こぎれいに手馴れて纏められているなと思いますね。

田中　**「ヒガシマル食品　新工場」**はどうですか。

髙砂　これは良かったですね。敷地は広く、駅の近くなんですけが、周りは住宅地で、それらの住宅に配慮して、建物を出来るだけ真ん中によせてツインタワーみたいに２つ高い建物を建て、あまり周囲に圧迫感を与えないつくり方をしている。周囲は出来るだけ緑で囲ってしまおうとしています。木のルーバーがあるんですが、西日を遮るためなのかと最初思ったんですが、ここの人に聞くと周りの住宅が見られるのを嫌がられるので視線をカットするため大きなルーバーを使っているということでした。このツインタワーはRC造で、これは音を外に漏らさないためだという説明をいただきました。

田中　環境のこともとても意識されていて、今回の賞に値するひとつではないかなと思いますね。嫌味が無くてスッキリしていますね。

髙砂　醤油づくりは地場産業ですが、そのための湧水を、提供公園では流しっぱなしにしていまして、この会社のイメージを出すつくりになっていますね。

田中　商品紹介、ギャラリーなどはありましたか。

髙砂　昼休みで見れませんでしたが、少しは展示があります。工場の様子は室外から見学できそうです。

田中　工場にしたらいろんなことを意識したつくりですね。

谷口　こっち側に立っている建物とは繋がってないんですか。

髙砂　ベルトコンベアーで繋がっていますね。こちらは流通ラインです。

井上　シンメトリーで真ん中に立っているわけではないんですね。

田中　配置図か図面が欲しいな。

井上　ヒガシマルはうまく土蔵をモチーフにしてぎりぎりキッチュじゃないところでとめている上手さみたいなところがあって、しかも今流行の木材を使っていてうまく解決しているなと思うのでこれは異論ないですね

田中　いい評価を頂きました。

■論考部門

井上　どの号も特集としてまとまっていて面白いですよ。

田中　窓の特集なんて面白かったですね。

全員　面白かったですね。

田中　香山先生の**「建築と窓」**は、１次審査では評価が一番高いですね。同じ特集の小林さんの**「フェルメールと窓」**も、普通の建築の話と違ってフェルメールの作品を通して窓を語っているのは面白いですね。

髙砂　フェルメールの絵から当時の建築がどうだったかということを書かれているので興味があります。

田中　最近の「建築と社会」の記事は羅列的というかエッセイ風に書かれるせいか、読み

終わっての余韻や文章にエネルギーを感じなくて、新しい発見や驚きを受ける記事が欲しいと常々思っていたんですが、フェルメールの記事はたいへん良かったですね。香山先生の場合、原点わかりきっているんだけど重みのある纏め方をされています。

髙砂　これは総論と各論の違いですよ。

田中　**「想定外を繰り返さない」**の河田先生の記事はいかがでしょうか。

井上　減災に関しては、どうしても愚痴っぽくなってしまいますよね。

髙砂　“どうして積極的に減災への取組みができないのだろうか”ですかね。

田中　それはある意味面白いですよね。

井上　この特集の各論４以降は具体的なことを書かれていて僕は面白いなと思うんですけど、１次審査の評価は低いんですね。事例をしっかり押さえていて役に立つと思うんですが。

田中　藤岡先生の**「歴史的建造物の保存活用」**は、いかがでしょうか。

髙砂　よく纏まっていますね。

井上　１次審査では票は入っていないんですが、３月号の東海支部特集の「賢人たちの夢みた空間」（執筆：河田克博）は名古屋の建築家の系譜みたいなものを纏めていて貴重な気がするんですけど。明治村も飯田喜四郎先生が明治村を開創するときのことをよくご存知で書き残してくれていて貴重なんですけどね。

田中　実際読んで「いいな」と思う論考と１次審査までの経緯があまりリンクしてない。このギャップをどう合理的に説明するか、答えを出すか、難しいなとずっと考えているんですけどね。

田中　いろいろ意見が出てきていますが各自２，３点挙げることにしましょう。

髙砂　「フェルメールと窓」、それから、「歴史的建造物の保存活用」、「建築と窓」。

井上　「フェルメールと窓」と「歴史的建造物の保存活用」。３点目はむずかしいな。

谷口　「建築と窓」、「歴史的建造物の保存活用」、三浦先生の「高齢者の住まいと取り巻く制度の現状と課題」。

田中　「歴史的建造物の保存活用」、「建築と窓」か「フェルメールと窓」ですが、もうひとり河田先生の「『想定外』を繰り返さない」でしょうか。

井上　みなさんが挙げたのをみると歴史系になりますね。

田中　そういう意味からいったら窓から２つですもんね。

井上　建築が直面している現状を無視しているというか歴史に逃げているかな（笑い）。減災とか高齢化とか入れたほうがいいのかな。社会性と環境性ですものね。

田中　それでいくと「『想定外』を繰り返さない」はどうですか。

田中　先ずは「建築と窓」と「フェルメールと窓」ですがどちらかを選びましょう。３点のうち２点が同じ特集からとなると偏りますからね。決め方としまして、この４人の意見一致が大事だと思うんですけど、１次審査で点数が多かったものを尊重し、それを踏まえたうえで判断するというバランスもいるかな、と思いますね。「建築と窓」と「フェルメールと窓」では「建築と窓」の方が、票数が多く読者により支持されています。「『想定外』を繰り返さない」も指示され票を取られている。「歴史的建造物」も票数が多いのでそれも妥当なのかなと。そんなバランスでいかがでしょうか。

髙砂　地震関係では「減災の視点からのソーシャルデザイン」も票をとっておられますよ。

谷口　地震関係でいくなら想いが伝わってくるのは河田先生ですね。

田中　いかがでしょうか。特にご意見がなければ以上の３点で決定させていただきたいと思います。

＊

田中　今回を通して感じたことですが、選ばれているのは総論、各論と固まったメジャーなところです。東海支部特集では地域とか街づくり、社会を意識したレポートや大学の研究室の活動レポートがありましたが、このような記事を対象にした「賞」があってもいいかもしれませんね。各大学の先生方にもっと「建築と社会」に目を向けていただければ、将来会員なるかもしれない学生が「あの時頑張った」と思えるような足跡を残せる。また、地域で取り組んでいる活動を活性化するためのきっかけを作ってあげられる。「建築と社会」がこういう活動の発表の場となるという視点があってもいいのかなと思うんですけど、いかがでしょうか。是非今後の検討課題としていただきたいですね。

審査会風景

■第12回読者と選ぶ「建築と社会」賞選考会

日時　2013年４月22日（月）
　　13：00〜17：00
場所　日本建築協会会議室
選考委員
委員長　田中直人／島根大学大学院特任教授
委　員　井上雅人／武庫川女子大学講師
　　髙砂正弘／和歌山大学教授
　　谷口与史也／大阪市立大学教授

○１次選考結果

［作品部門－11点］

・西予市庁舎（１月号掲載）
・ケントク本社ビル（２月号掲載）
・浜松信用金庫湖東支店（３月号掲載）
・トヨタ紡織猿投開発センター２号館（３月号掲載）
・京都銀行茨木ビル（４月号掲載）
・フェリス帝塚山（５月号掲載）
・甲南女子中学校・高等学校（７月号掲載）
・京都産業大学壬生校他むすびわざ館および付属中学校・高等学校（７月号掲載）
・正導会教団神野修行所（10月号掲載）
・ヒガシマル食品　新工場（12月号掲載）
・J-GREEN堺 DREEAM CAMP（12月号掲載）

［論考部門－10点］

・東日本大震災から学ぶ教訓と課題／室崎益輝（１月号掲載）
・広州花都文化芸術センター／遠藤秀平（５月号掲載）
・ネパールの学校建設現場も進行中／野田隆史（５月号掲載）
・建築と窓／香山壽夫（７月号掲載）
・フェルメールと窓／小林頼子（７月号掲載）
・『想定外』を繰り返さない／河田惠昭（８月号掲載）
・減災の視点からのソーシャルデザイン／室崎益輝（８月号掲載）
・高齢者の住まいを取り巻く制度の現状と課題／三浦研（10月号掲載）
・歴史的建造物の保存活用－残すことはつくることー／藤岡洋保（11月号掲載）
・宇宙エレベータの構造〜宇宙大量輸送機関〜／大野修一（12月号掲載）

●本選考会では１次選考でノミネートされた全作品について審査されましたが、ここでは選定された作品部門３点、論考部門３点を主に取り上げ掲載しています。